

八戸市地域おこし協力隊活動状況報告書

八戸市長
熊谷 雄一 殿

隊員氏名 大久保 加名子

次のとおり活動したことを報告します。

【活動報告月：2024年2月分】

1. 実施した活動の概要・状況

ECサイト・ローカルマーケットオンラインショップ運営、デジタルマーケティングお取り寄せ企画の検討、えんぶり運営従事、SNSによる広報活動を行った。

(主な活動)

【八戸えんぶり】4年ぶりに通常開催された「八戸えんぶり」に運営スタッフとして参加し、2/17～2/20の4日間のうちの3日間、八戸市庁本館前市民広場で行われた「一般公開」「かがり火えんぶり」に従事した。恥ずかしながら、えんぶりを観るのは小学生以来の経験であり、何十年振りとなった。自身と同じように八戸出身でも、最後に鑑賞したのは幼少期という方も多いのではないだろうか。大人による勇壮華麗な舞には目を奪われるほどに惹きつけられ、子どもたちの可愛らしい祝福芸には涙が出そうなほど感動し、大変心が揺さぶられた。2019年よりえんぶり初日は、市内の小中学校が休校となり、伝統行事に参加・鑑賞しやすくなっており、後継者不足への対応に向けた、非常に素晴らしい取組が施されている。このえんぶりの素晴らしさを体感した人が1人でも多くなれば、後継者だけではなく地域の支援者も増え、八戸えんぶりの存続につながる。歴史的な伝統芸能であることから、何かを変えることや加えることよりも、まずは市民に鑑賞して欲しい。そのために、私たちはいかに『えんぶりを観に行くことに対する興味や動機』を掘り起こすかを考え続けなければならないと感じた。

【旅行商品造成事業】冬ならではの自然美を鑑賞する奥入瀬溪流氷瀑ナイトツアーを視察した。視察の目的は、先進的な取組を視察し、参加して得た内容を団体内及び地域事業者へフィードバックし、体験プログラムの創出による誘客を強化することである。14kmにもわたる奥入瀬溪流の色とりどりにライトアップされた氷柱や氷瀑などを、ネイチャーガイドの解説を聞きながらバスで巡り、5カ所で下車し鑑賞した。今回の視察では、すでにある自然環境をライトで照らすというシンプルな方法だけで、観光資源化している点が非常に学びになった。新しいものを創り出す時に「0→1」にすることに視点が向きがちであるが、八戸市内で流行っている「チョコQ助」も、なぜ今まで思いつかなかったのだろうというほど、非常にシンプルな商品であることから、すでにある資源やモノに「+α」するだけで新たな価値を生み出すことができる。首都圏のような様々なコンテンツや資源が飽和状態である場所と異なり、地方は、素材の磨き上げと、「+α」をしブラッシュアップ

プし成熟させていくことの方が有益である。そのためにはまず、目の前にあるものの価値に気づくことが重要である。今後、誘客強化のための体験プログラムの創出において、このような視察を通し、気づきを蓄積していくことが重要と感じた。



市庁前のかがり火えんぶりの様子



十和田水瀑ナイトツアーの様子

2. 翌月の活動予定

EC サイト運営、SNS 発信、カフェ営業計画策定、岩手県内 DMO 視察